

# 「農」を未来へつなぐ

## 農地を整え、

### 「農」を未来へ一ほ場整備

ほ場整備は、分散する農地を集約させ、広く四角に整形し、大型機械の導入を可能にしました。同時に農道、用排水路を整えることで、作物の生産量は伸び、作業効率も格段に良くなったのです。

現在、日本では農業に就く人が減り、また農業者の高齢化が進む一方で、担い手が減少し経営規模の拡大が遅れてきました。そのため、いま、農業構造を強くするという、大きな改革が求められています。

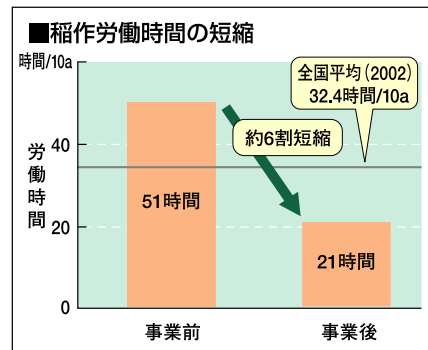
ほ場整備は、それを契機にして兼業農家や高齢農家とも意見を合わせながら担い手に農地を集積し、経営をより良くするものです。それによって、やる気と能力のある農業経営者が育ち、日本の農業を未来につなぎ、持続させていくのです。



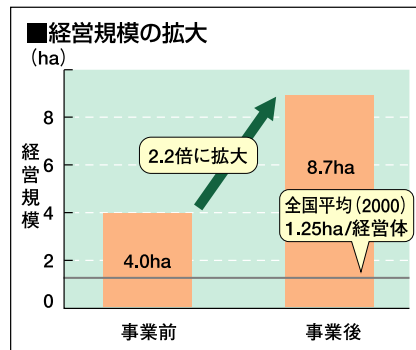
### 農業構造をより強くします

#### 担い手の経営を安定させます

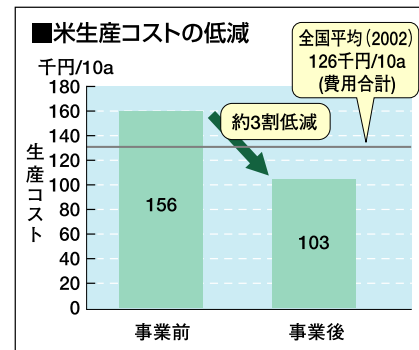
ほ場整備事業を実施した地区を見ると、担い手の稲作の労働時間が約6割も短縮していることがわかりました。また、経営規模は約2.2倍に拡大。さらには、米の生産コストも約3割低減されました。



注:平成8~14年度に完了した都道府県営ほ場整備事業の実績



資料:農林水産省農村振興局調べ



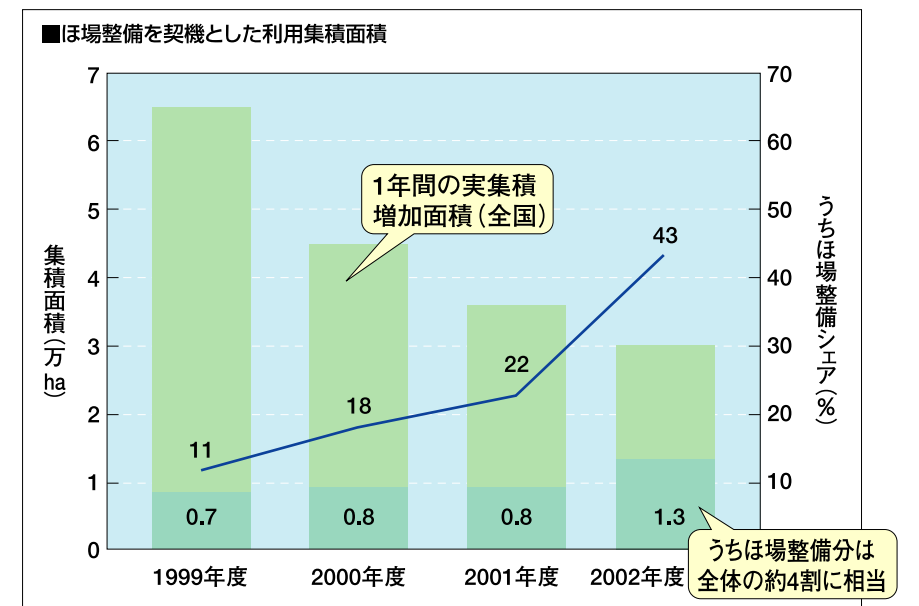
※担い手とは、  
①「効率的かつ安定的な農業経営」及びこれを目指して経営改善に取り組む農業経営(認定農業者)  
②一元的に経理を行い法人化する計画があるなど、経営主体としての実体があり、将来「効率的かつ安定的な農業経営」に発展すると見込まれる集落営農



写真:北海道千歳市長都東地区

### 担い手に農地を集積し、効率的な営農を進めます

ほ場整備事業の実施の際、担い手へ農地を集積するケースが増えています。1999年度には、担い手への実集積増加面積約6.5万haのうち、ほ場整備を行ったものは、0.7万haと約11%を占める程度でした。しかしながら2002年度には、約43% (約3.0万haのうち約1.3万ha) を占めています。

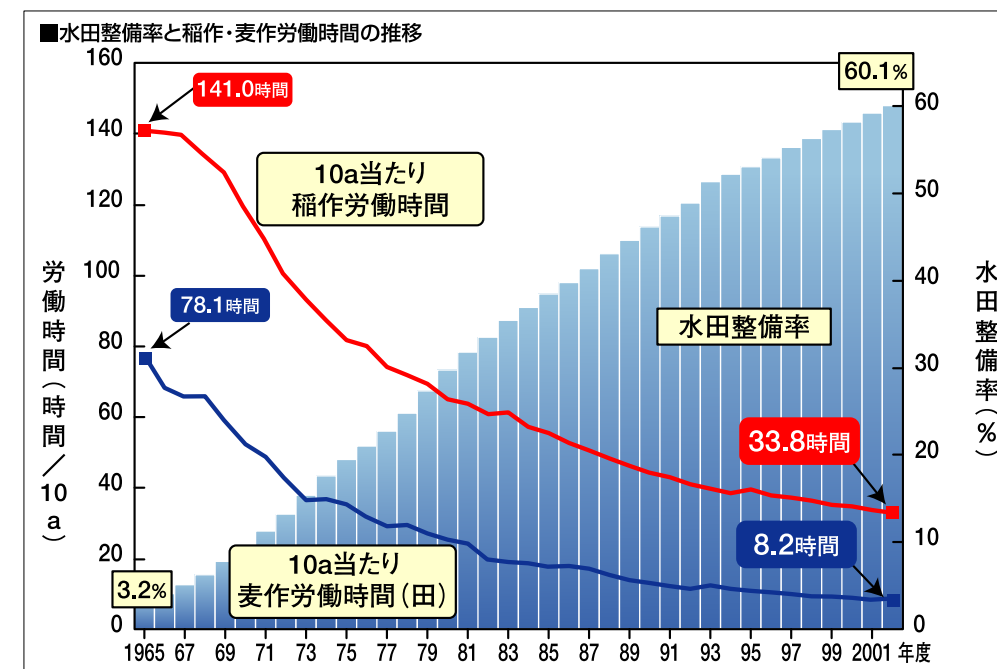


資料:農林水産省農村振興局調べ

### 労働生産性を上げます

整備の入っていない田は、狭く水はけも悪いため、大型機械の導入が困難です。ほ場整備は、こうした農地の改良だけでなく、農道や用排水路を整えるなど総合的に整備を行います。それによって農作業の効率上がり、労働時間が短縮され、労働生産性が向上しています。1965年から2002年の約40年間に、水田整備率は3.2%から60.1%になり、稲作の労働時間は約4分の1に、麦作の労働時間は約10分の1となりました。

※水田整備率:水田面積に占める30a区画以上で整形済み面積の割合。



資料:米及び麦類の生産費、農用地建設業務統計